

P3-1

青森県がん登録におけるエラー・警告に対する疑義照会の効果

田中 里奈¹、松坂 方士²、青森県がん登録室²、佐々木 賀広^{1,2}

¹ 弘前大学院医学研究科 医学医療情報学講座

² 弘前大学医学部附属病院 医療情報部



目的

青森県がん登録では、2020/6/19以降、登録作業時に発生したエラー・警告に対して解説文書を添付し、疑義照会を行っている。疑義照会がエラー・警告の発生率へ与える効果について検証した。

方法

青森県がん登録室へ2020/6/19～2022/12/31に届出された50,271件について、届出医療機関を「がん診療連携拠点病院」「その他の病院」「診療所」に分け、登録作業時に発生したエラー・警告の発生率をコードごとに届出1,000件当たりの値として算出した。

結果

表. 登録作業時に発生したエラー・警告発生率(届出1,000件当たりの値)

届出件数/ コード	がん診療連携拠点病院 (5施設)			その他の病院 (72施設)			診療所 (38施設)			エラー・警告コード
	2020年	2021年	2022年	2020年	2021年	2022年	2020年	2021年	2022年	
届出件数	8,149	7,604	8,464	8,214	8,321	8,090	426	458	545	E4003:側性と局在コード(側性なし)が矛盾
E1002	-	-	-	0.1	0.0	0.0	-	-	-	E4009:組織形態コードと診断根拠が矛盾
E4001	-	-	-	0.1	0.0	0.0	-	-	-	E4010:性状(3)と術後病理学的進展度が矛盾
E4002	-	-	-	2.9	3.0	2.3	0.0	4.4	1.8	E4013:性状(2)と治療前進展度と切除の範囲が矛盾
E4003	0.1	0.1	0.0	12.2	8.1	4.1	18.8	8.7	11.0	E4014:治療施設と術後病理学的進展度の矛盾
E4004	-	-	-	0.5	1.2	1.0	7.0	2.2	5.5	E4020:観血的治療の有無と術後病理学的進展度が矛盾
E4005	-	-	-	1.1	0.8	0.1	0.0	17.5	0.0	E4021:外科的・鏡視下・内視鏡的治療の有無と外科的・鏡視下・内視鏡的治療の範囲が矛盾
E4006	-	-	-	1.7	3.6	0.4	0.0	28.4	0.0	W4009:原発部位・局在コードと病理診断・形態コードと性状コードの組み合わせが稀
E4007	0.2	0.1	0.4	0.4	0.1	0.2	-	-	-	W4012:顕微鏡的確認がないと付与出来ないコード
E4008	0.6	1.3	0.0	0.7	1.6	0.4	-	-	-	W4015:性状(3)と進展度・治療前と術後病理学的が矛盾
E4009	-	-	-	2.3	1.9	1.1	4.7	24.0	1.8	W4019:治療施設が8(その他)
E4010	-	-	-	1.3	1.2	1.6	11.7	41.5	5.5	がん診療連携拠点病院ではエラー・警告は少なかった。その他の病院、診療所では2020年に発生率が高いE4003、E4010、E4014、E4013、E4020、E4021、W4012の発生率が2022年には減少していた。その他のエラー・警告に変化はなかった。
E4012	-	-	-	0.9	2.6	0.7	0.0	0.0	1.8	
E4013	-	-	-	1.8	1.2	0.9	7.0	17.5	11.0	
E4014	-	-	-	27.1	43.1	10.1	464.8	203.1	44.0	
E4015	-	-	-	7.8	15.4	2.0	2.3	2.2	1.8	
E4018	-	-	-	0.4	0.5	0.7	-	-	-	
E4020	-	-	-	36.4	54.0	11.9	157.3	89.5	56.9	
E4021	-	-	-	15.2	19.9	9.4	366.2	152.8	49.5	
E4024	-	-	-	0.2	0.6	0.1	-	-	-	
E4025	-	-	-	1.1	4.2	0.0	-	-	-	
E4027	0.2	0.1	2.1	0.4	0.2	0.2	-	-	-	
E4028	-	-	-	0.1	0.1	0.1	-	-	-	
W1010	16.6	0.0	0.0	2.1	1.4	1.0	-	-	-	
W3003	-	-	-	0.2	0.0	0.1	-	-	-	
W3004	-	-	-	0.4	0.0	0.1	-	-	-	
W3005	0.4	0.1	1.8	0.4	0.5	0.4	-	-	-	
W3007	-	-	-	0.0	0.0	0.1	-	-	-	
W3008	-	-	-	0.4	0.2	0.4	-	-	-	
W3009	2.2	0.0	1.7	1.7	1.0	1.9	0.0	4.4	3.7	
W3010	2.0	0.0	1.1	0.2	0.0	1.0	-	-	-	
W4004	0.2	0.0	0.4	0.4	0.2	0.4	2.3	2.2	0.0	
W4005	0.9	1.4	0.9	0.5	0.1	0.1	-	-	-	
W4006	0.0	0.3	0.1	0.0	0.1	0.1	-	-	-	
W4007	1.7	2.4	1.7	1.1	2.0	1.2	7.0	2.2	5.5	
W4009	52.9	54.1	47.1	66.1	64.4	58.7	2.3	4.4	11.0	
W4011	4.8	3.8	6.0	7.3	3.2	2.5	-	-	-	
W4012	-	-	-	14.4	20.6	11.7	112.7	137.6	47.7	
W4013	0.4	0.3	0.4	1.3	1.8	1.5	-	-	-	
W4014	0.4	0.3	0.4	1.2	1.7	1.4	0.0	0.0	3.7	
W4015	0.1	0.0	0.0	1.8	1.1	0.6	16.4	15.3	25.7	
W4016	0.0	0.1	0.0	0.7	1.3	1.1	0.0	0.0	1.8	
W4017	-	-	-	0.0	0.0	0.5	-	-	-	
W4019	0.0	0.0	1.1	0.0	6.0	10.0	0.0	19.7	25.7	

結論

がん診療連携拠点病院では、エラー・警告発生率が低かったことから、がん診療連携拠点病院では品質の高いがん登録情報が届出されていることが分かった。その他の病院や診療所においてE4003、E4014などの部位、進展度、治療内容などの組み合わせの矛盾によるエラーは減少したことから、疑義照会により届出担当者がエラーを認識し、その後意識して届出していると考えられた。特に疑義照会の効果は診療所で著しかったが、これは診療所で届出業務をしているのは研修などを受けたことのない職員であることが多く、疑義照会により知識が向上したためと考えられた。以上より、疑義照会にはエラー・警告発生率を低下させる効果があると考えられた。一方、W4009については、疑義照会に関わらず発生率は一定で高かったが、ルールF由来の警告であることが多いため、今回の検討では効果の検証は行わず、参考値とした。